

DI (Diffusion Index=景気動向指数) とは各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来の見通し予測を行う。

DIがプラスなら……好転、上昇基調  
DIがマイナスなら……悪化、下降基調

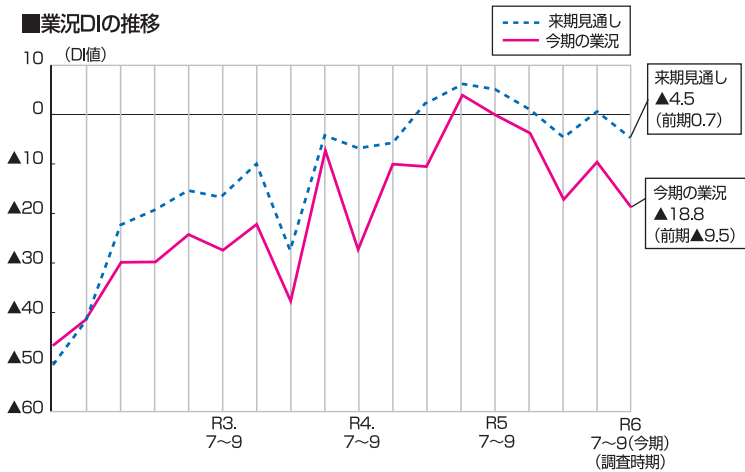
記号の見方

DI値	▲25P以下	▲25~10P未満	▲10~10P未満	10~25P未満	25P以上
景況	特に悪化	悪化	横ばい	好転	特に好転
	↓	↘	→	↗	↑

# 鹿児島商工会議所 景況調査

調査期間 令和6年7~9月  
回答企業数 140社

■業況DIの推移



■産業別DI値表

業況	全産業平均	前期	今期	増減	来期見通し
		[R6.4~6] (A)	[R6.7~9] (B)	(B)-(A)	
業況	製造業	▲26.5	▲30.3	▲3.8	6.3 →
	建設業	▲3.7	▲12.5	▲8.8	▲26.1 ↘
	卸売業	13.0	▲8.3	▲21.3	16.7 ↗
	小売業	▲25.9	▲39.1	▲13.2	▲17.4 ↘
	サービス業	0.0	▲5.9	▲5.9	▲6.3 →
	全産業平均	▲9.5	▲18.8	▲9.3	▲4.5 →
売上額	製造業	▲25.7	▲18.2	7.5	30.3 ↗
	建設業	▲26.9	▲36.0	▲9.1	▲16.7 ↘
	卸売業	22.7	4.2	▲18.5	21.7 ↗
	小売業	11.1	16.7	5.6	20.8 ↗
	サービス業	10.8	▲11.8	▲22.6	3.0 →
	全産業平均	▲2.7	▲10.0	▲7.3	12.4 ↗
資金繰り	製造業	▲20.6	▲12.5	8.1	0.0 →
	建設業	▲3.8	▲20.0	▲16.2	▲16.0 ↘
	卸売業	9.1	▲12.5	▲21.6	4.3 →
	小売業	▲7.4	▲8.7	▲1.3	▲17.4 ↘
	サービス業	2.7	▲6.3	▲9.0	6.3 →
	全産業平均	▲4.8	▲11.8	▲7.0	▲3.7 →
採算	製造業	▲22.9	▲27.3	▲4.4	3.0 →
	建設業	▲18.5	▲20.0	▲1.5	▲28.0 ↘
	卸売業	21.7	0.0	▲21.7	18.2 ↗
	小売業	▲29.6	▲12.5	17.1	▲8.3 →
	サービス業	8.6	▲18.2	▲26.8	▲9.7 →
	全産業平均	▲8.8	▲16.7	▲7.9	▲5.2 →

**業況は前期から悪化。来期見通しも好転せず。**  
【今期(令和6年7~9月期)の業況】  
全産業の業況DI値は、▲18・8 (前期比マイナス9・3ポイント)と悪化した。産業別でもすべての産業で前期からの落ち込みが見られる。  
【来期(令和6年10~12月期)の見通し】  
全産業の来期見通しは、▲4・5 (前期比マイナス5・2ポイント)となった。卸売業が好転した以外は軒並み横ばい、もしくは悪化となっている。

【今期の売上額・資金繰り・採算】  
全産業の売上額DI値は、▲10・0 (前期比マイナス7・3ポイント)となった。産業別では製造業と小売業が前期から改善し、その他の産業は悪化した。  
全産業の資金繰りDI値は、▲11・8 (前期比マイナス7・0ポイント)となり、産業別では製造業に改善の傾向が見られた。  
全産業の採算DI値は、▲16・7 (前期比マイナス7・9ポイント)を示した。産業別で見ると小売業が前期比でプラス17・1ポイントと好転するも、それ以外の産業では悪化の状態を示している。

【回答企業のコメント】  
・各種部材の仕入単価が上がってきているが、顧客への工賃を据え置いていることから利益が伸びていない。(製造業)  
・商品仕入単価の上昇にともない、利益率の確保が重要な課題となっている。(卸売業)  
・物価高の影響か、消費者の購買行動が抑制されているような印象を受ける。(小売業)